

歯科大学・歯学部教育現場では、オンライン授業の体制の構築と共に臨床実習が必要なため、教職員と学生並びに患者も含めた感染対策が求められている。留学生を多く受け入れている神奈川歯科大学の「教育」「臨床」「研究」面での現状や、今後の展望などを櫻井孝学長に聞いた。

With コロナ

歯科大学編



— 新型コロナウイルスによる大学の授業体制への影響などを教えてください。

櫻井 本校は現在オンラインと面接のハイブリッド型の授業体制を取っています。3月30日に新年度の学生登校停止を決定しました。

4月15日からオンライン授業のガイダンスを始め、生徒の住環境などによっては、オンライン授業に対応できないケースもあるため、ガイダンス等を利用して通信環境を確保なものとし、オンライン授業を開始しました。

同月20日から全学年を対象にしたオンライン授業を正式に始め、環境の整っていない学生にも早急に対応できました。緊急

櫻井孝氏

神奈川歯科大学学長 ①

事態宣言解除の5月11日をはじめに通常の教育体制に戻す予定でしたが、感染拡大の影響も受け、6月7日まで登校停止を延長しました。6月8日からは希望する学生には登校させ、現在のハイブリッド体制となつてい

ます。

— オンライン授業の環境はどのような形で整備しましたか。

櫻井 本校のオンライン授業では、パナソニックと契約しており、独自のLMSを別に立ち

上げて、それをクラウド上で運用しています。オンライン授業で行った内容をオンデマンドで再視聴できるように専用の教材を作るなどして学生に提供しています。

開始当初はPCでのオンライン環境が整っていない家庭が多いという状況で、学生の多くはオンラインで受講している

講義は「ハイブリッド型」



多くの学生がオンラインで受講している

— 毎年留学生を140人ほど受け入れています。影響は

— 諸事情で学修が遅れた学生たちに対しては、今後確認評価の試験を行うなど、特別な対応策を設けていく予定です。

が大きいので、今は、授業ごとに生徒のオンラインのログイン・アウトを確認しています。10月時点でオンライン授業は、学生の全体で6〜7割ぐらいが希望して受講しています。質問などあればチャットやメールを送って教師と質疑応答できるように配慮しています。

— 最近になってようやく入国制限が解除されたので、「法務省の身元引き受けの2週間、責任をもって大学側が管理します」というような誓約書を出し、台湾の留学生はビザ発行の申請が通りました。その留学生が10月21日ようやく入国できましたが隔離期間があるので2週間は登校できない状態でした。半年ほど入国期間が遅れる形になりました。

— 櫻井 先の状況が見えていたので、入国制限が掛けられる前に学生には早めに入国してもらいました。新入生6人と2年生1人が入国してはなかったのですが、ビザが下りず入国できない状態になりました。日本に入国できない学生にはオンライン授業で受講してもらう形を取りました。